



## 里山に育む生きものたち

### 25 カイツブリ

(カイツブリ目 カイツブリ科)

学名 Tachybaptus ruficollis

英名 Little Grebe

写真・文 / 山口 萬壽美

「もぐつちよ」で親しまれてきたカイツブリは、アビ類と共に潜るのが非常に巧みな水鳥です。この仲間は、世界には20種、日本では3種が繁殖し、2種が渡来します。一番小さいのがカイツブリで、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリの順に大形になります。

#### ▼主な特徴

大きさは約26cm。留鳥として本州中部以南に広く分布し、池や湖沼、河川などに生息し、浮巣を造って子育てをすることです。有名な鳥です。成鳥夏羽では顔前面から頂頭、後頸にかけて黒く、後面から側頸は赤褐色。背や肩羽、腰は黒つぼく、下尾筒は淡褐色、脇は淡

橙褐色。尾は短い。嘴は黒く、先端は黄白色。嘴の基部には黄白色の部分があり、眼（虹彩）は黄白色。他のカイツブリよりも頸が短い。冬羽（写真）は、夏羽に比べて淡色になり、上面は褐色みが強くなります。

鳴き声は「ケレケレケレ」とよく鳴き、警戒時は「ピッ」と鋭い声を出す。湖沼等で雌雄が大きな声で鳴き交わす声は、まさにこの鳥のものです。

#### ▼観察メモ

##### (1) 類似種と識別

ハジロカイツブリの成鳥冬羽は、頭部からの上面は黒く、頬や体下面は白っぽい。眼（虹彩）は赤く、嘴基部に黄白色の部分がない。カイツブリは

単独か数羽で行動しますが、ハジロカイツブリは、湖沼や海岸では、100〜300羽が帯状に長く群れて行動するので、すぐわかります。

##### (2) 減少傾向にある？その原因は？

山間の池や水辺から、甲高い声で「ケレケレケレ」と求愛のディスプレイが聞こえます。この響きは、「この沼沢は水もきれいな、餌もある、豊かな環境だよ。」と呼びかけているようです。

3年前の東日本大震災を原因とする地盤沈下や、河川改修・堤防普及工事等で、一時的にこの鳥の数が減少しました。特にハジロカイツブリの減少は著しく、湖沼では昨年からの帯状の長い群れが見れなくなりました。

##### (3) 多数のカワウも原因の一つ？

湖沼のカワウの生息数は、以前より大分少なくなりましたが、現在でも常時500〜600羽ほどが見られます。河川改修に伴う岸辺のアシ原の減少、多数のカワウの生息状況などがカイツブリの巣作りに影響したようです。少数派のカイツブリのため、健全な環境を保護し、以前のように子育てに励んでもらいたいと思います。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス [ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp](mailto:ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp)

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年3月31日現在)

◆総人口 33,925人 (-106) 男 16,966人 (-58) 女 16,959人 (-48) ◆世帯 12,501世帯 (-12)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています